

◎10月29日(火) 関空で同行者と落ち合う

関空(10:00)→青島経由→西安(15:40) MU2060 中国東方航空
(JAL と共同運航)

関空で通関後、機械で保険を申し込

アジアへの旅行7日間の条件で三井住友海上保険 保険料=4,000円

関空での出国手続きは簡単。通関は顔認証でパスポートを台に置くだけで OK。

予定では10:00出発の便だが、9:45分に離陸した理由は不明。(有りうる?)

機内食は朝食(?)少量の焼きそば、小さい鯛焼き(東大阪の業者)、3切れの果物。

飲み物を要求して青島ビール。＜中国的、世界的。330ml。Since1903年。度数は3.2%＞

＊時差:中国と日本の時差は1時間(北京時間)(米国の本土だけで4つのタイムゾーンあり)

MU2060 便は、青島に寄港した(約1時間)後に、西安に向かう。(15:30 西安到着)

関空→青島(飛行時間2時間20分) 青島→西安(飛行時間2時間30分)

青島到着後に中国入国手続き。セキュリティチェックが最近やたらと厳しい。その場で写真を撮ったら注意され、タラップから降りた時の写真を含めて全て消去した。バンダナ、帽子、傘までもチェックされた。

一時滞在した青島で蟹の干物を2袋購入した。(4元x@ ¥16.-=64円)

＜参考資料＞

＊中国東方航空は、年間約1億人を運んでいる世界で7番目の大手。保有機=552機。
香港、上海、ニューヨークの3取引所に最初に上場した有限公司。
円と元の換算レートは 中国元 ¥1.-=日本円の≒16円

・15:40に西安に到着。ガイドは段さん。運転手は唐さん。添乗員は呉さん。

西安市内のモノレールが9月30日に開通したらしい。

空港からまちへ向かう途中、右側には工事現場が続いていた。大きな公園が出来るとのこと。

鐘楼は城壁内のほぼ中央に位置している。

城壁は周囲14kmで市を囲んでいる。今の城壁は唐代の長安を基礎にして 1370年から1378年にかけてレンガを積み重ねて造られた。城壁は東西に長く、南北は短い。東門は文昌門、西は安定門、南は永寧門、北は安遠門。西側の安定門は城壁の中で最大で汁粉ロードの発着点として栄えた。この安定門へ登って見学。腸壁の長さは当面 2,90m、西面 2,631m、南面 3,441m、北免 3,244m。高さは 12m、頭頂部の幅は 12-14m。城壁には 120mおきに、見張り台が作られ、外周には 98 の敵楼があり、その上に櫓が築かれている。城壁は繋がっていて、一周することが出来る。

夕食は鐘楼近くの「徳發長」西安で有名な餃子専門店。色々な餃子が出て来た。夕食後に西安(XIAN)の夜景見物を見物。鐘楼近くは綺麗にライトアップされて大変綺麗な夜景だった。



写真:西安市鐘楼付近



写真:西安の鐘楼をバックに



全員記念撮影



写真:兵馬俑(模型)



西安鐘楼夜景



夕刻の鐘楼付近

★回民街

西安の中心にある鐘楼から西へ 100mほど歩いた通りはイスラム街。約4万人の回族が住んでいる。古い宗教伝統と生活習慣を守っていて、「美食街」は毎日、縁日のように赤々と映し出された串焼き肉、串焼き鳥、賊など独特の食べ物が道の両側の店で売っている。回教徒なのでこの通りの食堂ではアルコール類は飲めないらしい。因みに、西安では通常、ビールは常温で提供される。また、冷水を注文すると白湯が出てくる。

缶ビール(青島ビール 330ml)は店で買うと6元だが、レストランでは 30 元で5倍になる。



写真:回民街 いか焼き



回民街



回民街



回民街



回民街



回民街

ホテルにはミネラルウォーターが各自1本無料支給あり。

建国飯店(JIANGUO HOTEL)泊

◎10月30日(水) モーニングコールは 6:00 朝食は6:00～ ロビー集合は8:30

<参考資料>

「中国の土地の賃借権は50年分 一括払い」(所有は出来ない) 建物には固定資産税はかからない。

「中国の税制:8種類あり。

① 流通税類 ②所得税類 ③資産税類 ④特定目的税類

⑤財産税類 ⑥行為税類 ⑦農業税類 ⑧関税

* 流通税＝増殖税 + 中国(消費税)

増殖税は資産の譲渡・貸付ならびに役務の提供に対して

消費税は奢侈品、嗜好品を対象に

日本の消費税は資産の譲渡・貸付ならびに役務の提供が課税対象。

中国の消費税率は4段階。(13%、9%、6%、3%)

*モノに対して 13%、サービスに対して 6%(2019/3/21 改正)

* 所得税:①企業所得税(日本の法人税) 現在は 25%(小規模企業は 20%)

②個人所得税(日本の所得税)③増殖税(日本の消費税)

★西安(Xi'an)(陝西省の省都)

遙か昔の西周時代から11王朝が都を置き、東西交易により繁栄した悠久の都である。

かつて、長安と呼ばれたこの街は2000年に亘り歴史の中心であった。秦の始皇帝が中国を統一し、シルクロード交易の西の拠点として唐代に繁栄を極めた。今残っている城壁は明代のもの。玄奘三蔵がインドから経典を持ち帰り漢訳に励んだ「大雁塔」(652 年創建)がある。7層の大雁塔は今では少し傾いているので、水を地下に注入し傾きを直しているらしい。城壁内にある市街地は東西、南北の碁盤の目の通りの中心には「鐘楼」がある。この形状は日本の平城京や平安京の手本となった。空港と街の中心との間で大きな公園づくりの工事が行われていた。公園を造れば、その回りにマンションが建設され、人々は公園の近くのマンションを購入する。中国人は公園の近くにすむのが好きだ。どの公園でも老人がダンスや太極拳をして楽しく集っている。(ガイドの説明より)。

★秦始皇帝兵馬俑博物館(世界遺産)

西安市の郊外に博物館がある。この兵馬俑は、20世紀最大の発見と言われている。始皇帝陵の存在は「史書」や「漢書」等に記載されていて、1962 年に省の文物管理委員会が一度調査をしたことがあるが、この兵馬俑の存在は知られていなかった。

1974年3月29日、西安市の東北の県の農民(6人)が井戸を掘っていて、偶然に破片を発見した。人間大の人形を発見(左足欠損)、胴体は無傷で、わきに青銅の矢があった。

2か月後に新華社通信の記者がこの陶俑が秦代の俑だと見抜いて、当局に報告し、その後、国家文物局の命で1年間、東西 200m超、南北60m超の1号坑(6000 体の俑)を発掘した。1976年4月には2号坑、5月に3号坑を発見。

この博物館の敷地は広く1号～3号を合計すると約2万平方メートルに及ぶ。2,200 年前に作られた約8,000点の陶器がある。秦の始皇帝は13歳で即位し、即位後すぐに造営に着手。36年かけて完成したもの。陶器製の人物像は身長が180cm、上半身は空洞、下半身は無垢で、重量が 300kgもあるが、顔の容は全て異なっている。馬はお腹は空洞。



写真：兵馬俑1号坑



写真：4頭立て馬車



写真：兵馬俑1号坑



写真：秦始皇帝博物館



写真：王先生と小原さん



兵馬俑

入り口で、携帯マイクを貸してもらい、1号坑展示館から見学開始。一号坑の屋根は蒲葺上で体育館のような形をしていて、東西は230m、南北は62m。秦軍の実際の隊形は東に向いている。指揮官、騎兵、歩兵の軍団で*武士俑(兵士俑、歩兵俑)*御者俑(4頭立て馬の指揮用戦車)等々。見学した時にも、発掘作業が行われていた。作業は専門家が慎重に進めている様子で、破片を集めて原型に戻す手間の掛かる作業である。ガイドは今のペースで行けば、完全発掘まで100年間は掛かると説明していた。坑の回りは見物客でごった返していた。今までの一日の最大入場者数は137,000人。最近は一日の入場者は65,000人に制限されている。現行の入場料は15元。(=日本円で225円)

1号坑とは別の場所に5体の兵馬俑が展示されていた。4頭立ての馬車は精密に作られていた。今年は発見された時から45周年、博物館開館から40周年である。

＜見物を終えて、集合場所に時間通りに行ったが、仲間が見つからず、慌てて出口から出て探した。出口から下にはお店が沢山あり、その辺りを探したが見つからない。出口からもう一度入ろうとして、許可してもらえず、仕方なく、最初の入り口のところへ戻り、英語が出来る事務員をやっと探して、入場した時の近くにあったセンターからホテルへ電話をしてもらった。やっとガイドと連絡が取れて、無事に仲間と会うことが出来たが、言葉が通じないのは「難儀」なことかと実感した。同時に、仲間や引率者(王さん)に大迷惑を掛けてしまった。(何度も、場内で呼び出してくれたらいい。)

★青龍寺(真言宗)

創建は582年、当初は靈感寺と呼ばれた。621年に一度廃寺となったが、662年に再建され観音寺と改められた。空海が住職の恵果から真言密教を学んだお寺である。711年には青龍寺となったが、845年会昌の廃仏によって寂れていた。1982年以来、西安人民政府が発掘調査を行い、この地がいにしえの青龍寺だと確認した。今では日本からの寄付で境内には空海記念碑や恵果空海記念堂が立っている。日本の信者が寄付をした桜の木も植えられている。元四国霊場会会長により、四国八十八箇所の〇番札所と名付けられた。真言宗の付法の八祖の最後が弘法大師(高野山を創建した)である。

2か月前に高野山へ行ったこともあり、記念として数珠を買ったが、お布施も含んでの1万円は高かった。



写真: 恵果法師と空海



「和」

★大雁塔 (2014年「シルクロード: 長安・天山回廊の交易路網」の一部として世界遺産登録) 唐の高僧玄奘三蔵がインドから持ち帰った經典や仏像を保存するために高宗に申し出て建立した塔である。7層 62mあり、大慈恩寺の境内に立っている。三蔵は帰朝後にこの寺で11年間に亘り翻訳活動をし、40部の經典を漢訳した。仲間と一祖に木製の階段を最上階まで登り、最上層から四方八方の市内を撮影した。

・その他の見聞

- ① 20年前にはこの大雁塔の周囲は畑だった(ガイド説明)
- ② 来年 隣接市と合併すれば、市の名前が西安→長安になる可能性がある(ガイド)
- ③ 西安には大学多い(約 100 校) 学生数は120万人(ガイド)もいる。(西安の人口は96万人)



写真: 西安大雁塔前で記念撮影

★大興善寺

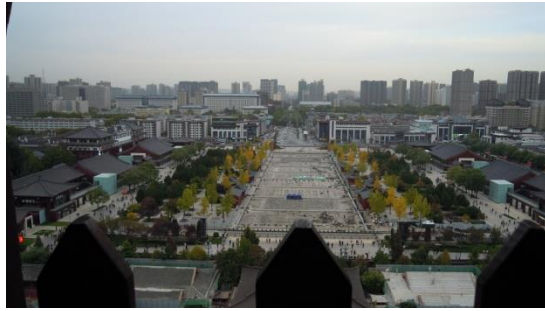
西晋代に建てられた仏教寺院。インド僧がここで經典を翻訳して中国に密教を伝えた。1,700年以上の歴史をもつ長安第一の大寺である。玄宗の時代に密教道場とされ、ここで日本の円仁・円珍らも修業した。会昌の法難(845年)で荒廃し、清代にはイスラム教徒により破壊された。寺院の敷地は広大で、唐代や宋代に作られた仏像をはじめ、彫刻芸術品、仏教建築の遺跡など数多く残されていて、現在は国の重要文化財に指定されている。

★西安の城壁

13.74kmの城壁が西安のまちを長方形に囲っている。東西に長く、南北は短い。東西南北に門があり、西側の安定門が一番大きい。城壁はレンガ造りで、上部の幅は12~14mあり、自転車で走行できるがレンガ造りなので走りはスムーズではないし、一周回るのに2時間がかかる。城壁の途中には土産物店がある。東門の近くにはウォルマートがあった。



写真:安定門上の建物



安定門から西安市内を望む

◎10月31日(木)

朝食 6:00 集合 8:30 分

首里城が焼失したことをスマホ(Wifi)で知る。このニュースを「ガイドさん」に説明し「中国が領有権を主張している沖縄の首里城だと皮肉交じりで話したが、反応は無かった。全焼したのは、スプリンクラーが無かったからだろうが、設置義務規則の有無に拘わらず、安全のために設置するのが常識だろうと思った。第2次大戦で焼失し、再建された重要な文化財が焼けてしまったのは残念である。

★碑林博物館

歴史を伝える石碑・墓碑・金石文・墓誌銘・石彫刻を 1000 点以上集めていて、中国最大の石造りの書庫と呼ばれている。

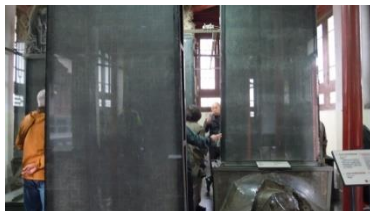


写真:石碑



写真:碑林博物館の前で撮影



碑林入り口の門

17:30 西安空港(20:05)→重慶(21:40)MJ2327 便で

ホテル「HOWARD JOHNSON」泊

◎11月1日(金)

<重慶市>

<出所:2019/4JETRO 資料>

市常住人口は 3,100 万人(只、市域の面積は北海道とほぼ同じ 都市化率は 65.5%

中国の4つの直轄市のうちの一つ(*重慶・*上海・*北京・*天津市)

(*上海市=2,400 万人。*北京市=1,000 万人。*天津市=1,500 万人

*重慶市=3,100 万人・・四川省の州都・成都市=1,800 万人。)

(中華人民共和国人口:13 億 9,000 万人)(世界第1位)

第2位=インド、第3位=合衆国 第4位=インドネシア)

*重慶は、三峡ダム完成後は1万トン級の船舶が航行でき、内陸の国際コンテナターミナルとなっている。また、*三峡ダム下りの始点(3泊4日のツアーがある)

市内にはガス田やシェールガス開発・生産がある(2014～)らしい。

夏は暑く、過去に、国内最高気温の記録(43.6℃)がある。

<参考資料>

*** 重慶の歴史**

- ① 古代・巴の国、紀元前316年に秦により「滅ぼされた。
- ② 1189年 光宗(南宋)により、重慶と命名さる。
- ③ 1891年 長江沿岸の港湾として対外開放
- ④ 1929年 重慶市政府が成立
- ⑤ 1937年 日本軍による南京占領
- ⑥ 1938年 蒋介石の国民と政府の首都(大韓民国臨時政府も)
- ⑦ 1938年12月～43年8月23日 日本軍による戦略爆撃(合計218回)
- ⑧ 1941年9月 「重慶爆撃無用論」(遠藤三郎少将)により爆撃中

*** 重慶市の市民生活**

2018年消費者物価指数前年比 2%アップ

・平均的市民一人当たり収支(元)等<出所:重慶統計年鑑(国民経済と社会発展統計公報)>

- ① 可処分所得(2018年):34,889 元
- ② 1人当たり消費支出(2018年):24,154 元
- ③ 失業率:(2017年):3.4%
- ④ 平均賃金(2017):73,272 元

*** 重慶市への主な進出企業**

<出所:重慶市統計年鑑(2018)>

・日本企業(ホンダ、スズキ、ヤマハ、いすず、デンソー、関ペ、新日鉄、フタバ、川重、日立化成・・・)

・他国企業(ペプシ、BP、シーメンス、デルファイ、オーチス、フォード、現代自動車、バンコックタイヤ・・・)

* 輸出相手国

- ①米国(27%) ②独逸(12%) ③韓国(5%) ④香港(4%) ⑤日本(3%) ...その他 43%

* 輸入相手国

- ①韓国(14%)、台湾(10%) ③マレーシア(10%) ④タイ(9%)、日本(7%) ...その他 40%)

*** 中国地方行政**

- ① 地理大区(6):・東北、・華北、・華東、・中南、・西南、・西北
- ② 地方行政: 23省(含台湾)
- ③ 直轄市(4):・北京、・重慶、・上海、・天津
- ④ 地級市(283)
- ⑤ 県級市(374)
- ⑥ 自治区(5):・広西チワン族、・内モンゴル、・寧夏回族、
・新疆ウイグル、・チベット

⑦ 特別行政(2):香港特別行政区、・マカオ特別行政区

その他見聞:重慶市は長江と嘉陵江に挟まれた半島状の街。坂が多く、高層ビル群が林立している。

市内には、所謂民家はなく、全てがマンション暮らし。

☆重慶は昼間ボロボロ、夜はキラキラ。(起伏の多い街で、ライトアップされた夜景が綺麗。)

河の近くや、丘の上に高層マンション群が立っている。起伏が多いまち故に、地下鉄はなく、モノレールが普及。丘の中腹に幅広い道路が走っている。

★陶器口古鎮

台北近くの古くからの商店街に似た場所である。漢方薬や豊富な地元の食材を売っていて、店では威勢の良い店員が大声で商品の説明をしている。一か所、物凄い悪臭を発する店があった。豆腐の腐らせた物を売っているのだ。周囲のお店が良く文句を言わないものだ。道からそれて狭い脇道に入ると、古ぼけた家があり、一見、素人が喫茶店を経営していた。眼下には嘉陵江が遠望できた。



写真:陶器口内の店



写真:陶器口の物産店

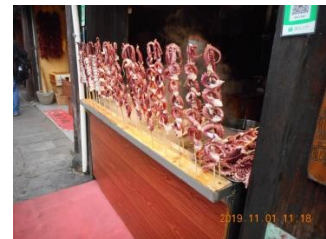


写真:陶器口のイカ焼き

★洪崖洞窟

新しく作った名所のようだ。崖に昔風の新しい建物を建てていた。建物内のエレベーターで上へ登ったら、広い道路に出た。この重慶は本当に坂の多いまちだ。

★山城歩道

狭い道に入ると昔のフランス大使館跡地や教会・病院がある。フランスが教会・病院や消防署を置いていた跡だ。当時から欧米の列強がこの重慶にも進出していた。資料によると、日本軍の重慶爆撃は欧米列強の建物などをさけるように、注意して爆撃したが、国民政府に与える効果は少なかった。教会らしい建物は今では博物館になっていて、フランス消防署員の写真や防災帽子が飾られている。



写真： フランス教会跡



重慶の散歩道

☆旅の思い出

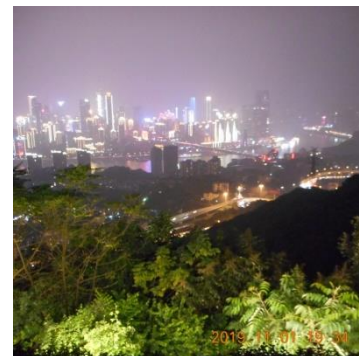
重慶市の中心街へ来た時に、木彫りの馬を見つけたので「旅行記念品」として購入した。大きな梱包になったが、梱包を解体して、スーツケースに納めた。



写真：旅の記念品



写真：重慶



写真：重慶市の夜景

ホテル「HOWARD JOHNSON」(泊)

◎11月2日(土)

重慶市からバス(7:30)で樂山市→成都市へ

★樂山大仏四川省樂山市(成都市から南へ約 120kmの地級市)

弥勒菩薩を象って掘られた巨大な摩崖仏(石仏)(世界遺産)近代以前に作られたものとしては世界最大・最長の仏像。顔は100 畳分、岩山を掘り、713年から803年までの90年掛けて造られた。高さ 71m、東大寺の大仏の5倍。この樂山大仏は民衆の手によって作られた。当時頻繁に起っていた水害を鎮めるために民衆の布施の下に寺・凌雲時に隣接する崖に僧の海運が石像を掘り始めた…。

大仏の場所は、長江水系の岷江に大渡江と青依江が合流しているところ。海運没後も事業は引き継がれて完成した。見学は船で近くへより、船の上から。上陸して石像の回りを歩くこともできる。当時は 13 層の建物に覆われていたが焼失し、今は裸。法衣は金箔、胴部分は朱色だったが、風雨に晒されて色落ちし雑草に覆われていた。1962 年に修復開始し、峨眉



写真: 楽山大仏



船の上から大仏見物

山と共に複合遺産として世界遺産に登録。

成都市までバスで行ったが、途中の高速道路が修理中でおおよそ4時間かかり成都市へ到着した。

18:30 に成都のレストランへ到着。このレストランでは14品目の小皿がテーブル一杯に出された。四川料理は大変美味しかったのは、辛さ控えめに調整されていたからだろう。一品だけ、辛ら過ぎて食べるのを控えた。食事の途中、大変暑かったので一時シャツイチになったが、クーラーが効き出して

く夕食後にホテルに到着。ホテルの前にあった、ショッピングモールへ買い物に。

再び、落合場所(地階と一階)を間違えて仲間に迷惑を掛けたのは不覚だった>

ホテル「Dading century plaza hotel」泊

◎11月3日(日)

○成都(四川省の省都)「金城」とも「芙蓉城」とも呼ばれている。

歴史は長く、紀元前4世紀にはすでに蜀の首都として栄えていた。

★成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地

成都パンダ基地は1987年に設立され、パンダの繁殖に関する研究・保護・教育・観光地として世界的に有名な施設である。保護されたが自然に返すことが困難だった6頭のパンダから始まり、2011年までに累計172頭のパンダの繁殖成功している。また、日本の和歌山県白浜にあるアドベンチャーワールド(成都基地の日本支部)が世界初の協力先となり、2017年6月までに15頭のパンダの繁殖・育成に成功している。(15頭のパンダの所有者は中国) 見学者が一日に10万人だったことがある。パンダは一日に20~30kgの笹を食べて、20kgほどの糞を出す。1000種類ほどの笹の中で50種類を食べる。飼料の笹が不足したら雲南省から空輸する。1996年の調査では中国に1,600頭のパンダが生存していて、この四川省が一番多い。生まれたてのパンダの赤ちゃんも見ることが出来た。(撮影は禁止)



写真:木の登っているパンダ



寝そべっているパンダ

★三星堆博物館(徳陽市)

長江文明に属する古代中国の遺跡の一つ。1986年に中国四川省徳陽市の三星堆で発見された。この文明は今から 5000 年から 3000 年前に栄えた古蜀文化である。遺跡自体は、1939 年の春に、近くの農民が溝を掘っていたときに玉器を見つけ、省の委員会が本格的に発掘を行い大規模な住居跡が発見した。1986 年には玉器・金器・青銅器なども出土し、1988 年1月に、全国重要文物保護単位に指定されている。異様な造形特長の青銅器製の仮面や巨大な人物像が多数出土し古蜀王国の存在と中華文明の多様性を示している。発見された青銅像は、大きな目、目玉が飛び出した顔などに特徴がある。



写真:三星堆青銅館



写真:青銅の頭部



青銅館座人像

★武侯祠(諸葛孔明のおくり名)

諸葛孔明と主君の劉備が祀られている。諸葛亮殿の中央には諸葛亮像が、劉備殿には劉備や武官達の像が展示されている。現在の遺構は清朝のもので、1961 年に全国重点文物保護単位に指定された。像は後世の作品で、「三国志演義」のイメージに基づき作成されている。



＊諸葛亮像

＊劉備像

＊関羽像＊趙雲像＊馬超像もあった。

☆陳麻婆豆腐(夕食)

1862年創業の麻婆豆腐を生み出した元祖の店で夕食を摂った。麻婆豆腐はここのおばあさんが考案したらしい。本場の麻婆豆腐は山椒が強烈に効いていて舌が痺れる味がする。この店の麻婆豆腐以外の四川料理は大変美味しい。日本人の口に合う。

★四川オペラ変面ショーシアター

座席に付いた後で、舞台の衣装を着せてもらうオマケがあり、各自衣装を着けて写真撮影した。舞台ではキラキラした衣装を着飾った人物が登場し、仮面が突然に変わる技を披露する。仮面が瞬間的に変わる早業のメカニズムは分からなかった。この種の中国伝統芸能のオペラ団が四川省では複数存在するようだ。

この成都市は日照時間が少なく、女性は色白の美肌美人が多い(らしい)



写真:陳麻婆豆腐店



成都梨園劇場



衣装を着て撮影



四川演芸(仮面劇)

「Dading century plaza hotel」泊

◎11月4日(月)

モーニングコール 4:30 集合5:20 出発5:30 各自お弁当を持参して空港に向かった。空港までは20分で到着した。

成都(7:40)→上海(10:35) 上海(15:00)→関空(18:30) 解散



写真:上海空港のトイレ
おわりに



上海空港のベンチ(USポート付)



多くのレストランのトイレ

今回の中国旅行で感じたこと:

- ① 国土が広いこと。(日本の約 26 倍)
- ② 人が大勢住んでいること。(日本の 12 倍) 重慶市の人口が 3、100 万人。
- ③ 重慶市や成都市内には古い民家が無いこと(高層マンションが林立)
(古い民家を潰して新しいビルを建設すれば街は綺麗になり、有効需要を呼ぶ。)
- ④ 道路の並木が多いこと。
- ⑤ 土地が私有でないため、都市計画が進めやすいこと
- ⑥ 公共投資(道路・公園など)が効率的にできる
- ⑦ 計画的な公共投資が経済成長を支えていること
(計画的な経済運営は効率的である)
- ⑧ 一党独裁は指導者が良ければ効率的であること(民主主義的政治はロスが多い)
(ただ、一党独裁は独善的・独裁的・独断的になる危険性が高い。)
- ⑨ 歴史を大切にするのは良いが、もし中華思想を推し進めるのなら時代錯誤である。
- ⑩ 中国のトイレ革命は、公共施設では実施されていたが、個々のレストランでは未完成。
- ⑪ 香港のデモの影響か、中国入国時のセキュリティが大変厳しかった。
- ⑫ スマホを持参したが、海外からの情報は管理されているのか受信出来なかった。
- ⑬ ホテルは 5 つ星だったが、テレビ放送はチャンネルが多いが全て中国語だった。

最後に、この旅行を企画され、引率して頂いた「王先生」に心から感謝申し上げたい。

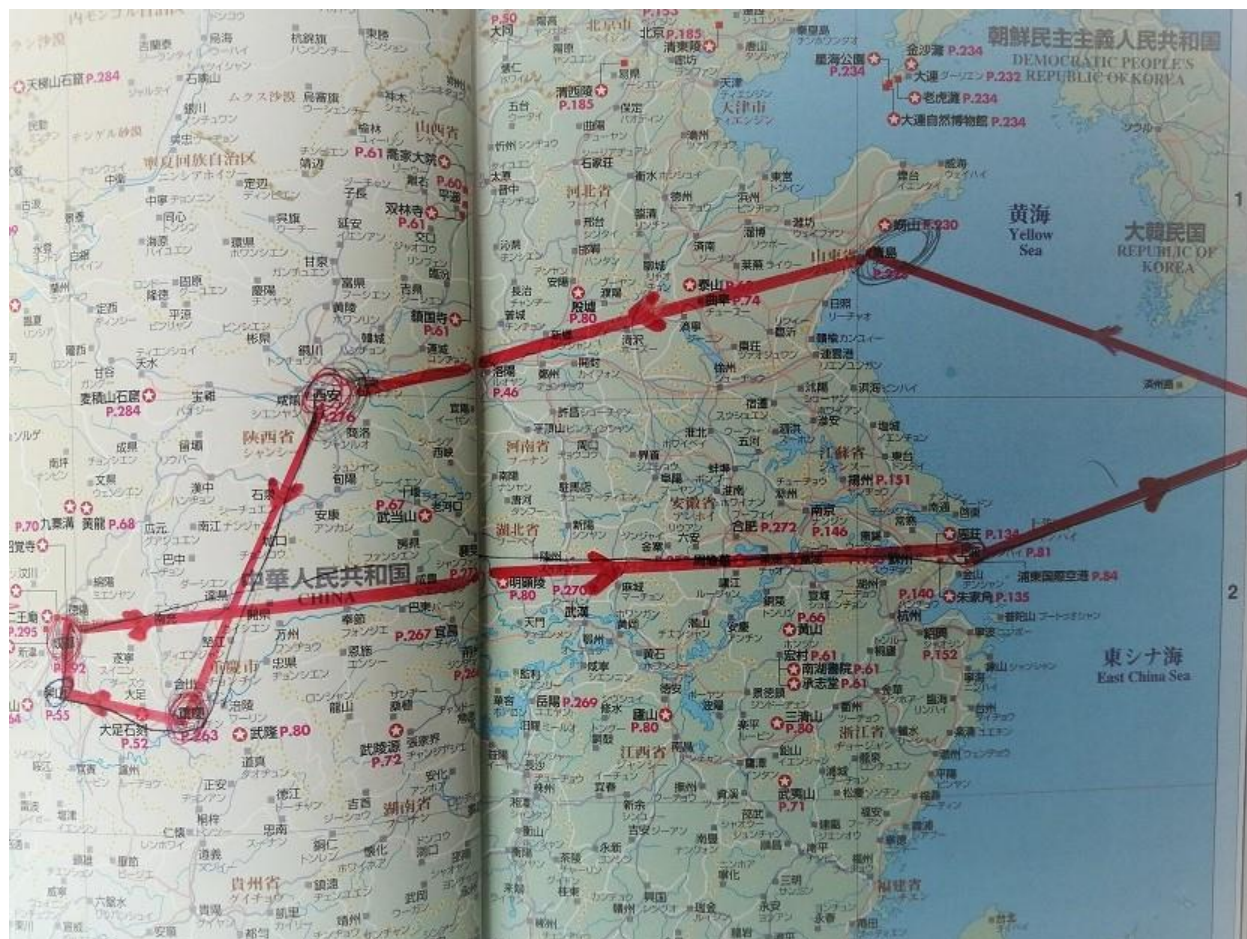
また、2 回も勝手に動き、同行者の皆さんにご迷惑を掛けたことをお詫びしたい

(ご同行者:松井親子、稲田夫妻、内田氏、高木夫妻、田中夫妻、武智さん、新田夫妻、
小原夫妻 計 15 名)

完

パンダ・大仏・兵馬俑・てんこ盛り千歳旅行

(中国の西安・重慶・乐山・成都)



(令和元年 10月29日~11月4日)

〒589-0007 大阪府大阪狭山市池尻中1-28-1

小原 一浩・好美

072-366-1113